

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人斐川あしたの丘福祉会 放課後等デイサービス あしたのおか		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動 インクルージョンの観点から、社会との繋がり・卒業後の生活についてアセスメントし、自立活動に力を入れている。 土曜日・長期休校期間などを利用し、社会生活に必要なスキルを身につけられるような活動(クッキング・買い物体験・公共の場所や移動手段の体験・食事体験等)を行っている。	土曜日・長期休校期間以外の平日の療育においても、施設内で社会生活の模擬的な体験ができるよう工夫している。 (畑作業・疑似買い物・リサイクル活動・お手伝い活動等)	基本のプログラムに創意工夫を重ねながら、子ども達が楽しく学ぶことができるようパワーアップしていきたい。

2	<p>・ SST 心理指導担当職員が特別支援計画を立案し、SST担当の指揮の元で年間を通じてSSTプログラムを作成し実施している。 また、トークンシステムを応用して、子ども達のスモールステップでの目標達成を支え、自己効力感や自己肯定感を高めることができるよう支援している。</p>	<p>SST、トークンシステムともに、子ども達の「好き」「たのしい」「うれしい」を基盤にしながらひとりひとりに合ったプログラムになるよう計画、実施している。</p> <p>スタッフ全員が起案や計画、実施に関わっている。</p>	<p>現在のSSTプログラムに創意工夫を重ねながら、子ども達が楽しく学ぶことができるようパワーアップしていきたい。</p> <p>ひとりひとりのトークンに加え、子どもたちみんなで達成できる仕組みも加えて行けるといい。</p>
3	<p>・ マンパワーが充実している 支援に携わるスタッフ（常勤・パート職員）が全て有資格者（保育士・心理指導担当職員・経験5年以上の児童指導員・児童発達支援管理責任者・強度行動障害支援者養成研修修了者等）で障害児支援の経験があること。 子ども達の笑顔や成長を支えたい、放課後の安心できる場所でありたい、よりよい支援を追求したいというチームとしての意識が高い。</p>	<p>個別支援計画・療育プログラム・各種行事について、常勤・パート職員の区別なくスタッフ全員が立案・起案に関わっている。</p> <p>カンファレンスや支援会議、ミーティングにおいて専門分野やこれまでの経験から、意見交換を活発に行っている。また支援中にチーム内でコミュニケーションを密にとることにより、支援の実施において迷いやばらつきが少なくなるように努めている。</p>	<p>現在、欠員の状態であるため、ひとりひとりの負荷が過剰となっている。</p> <p>人員補充後もさらにチームとしてパワーアップできるよう努めたい。</p> <p>勉強会や研修会の機会も増やせたらと思う。</p>

	<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>・ 送迎サービスが片道だけであること 平日は学校へのお迎えサービスをしているが事業所から自宅への送迎サービスがない。 長期休校期間は自宅への送迎サービスをしているが、朝の自宅へのお迎えサービスがない。 このことでやむなく利用を諦められるケースがあることが残念である。</p>	<p>昨今のご家庭の事情を考えると、往路・復路ともに送迎サービスを利用されたいというニーズは高くなる一方ではないかと考える。</p> <p>送迎サービスと利用時間の折り合いがつかないケースでも、ファミリーサポートや移動支援の利用などで解決している例もある。</p>	<p>送迎サービスが往路または復路の片方であることはデメリットだけではなく、保護者の方に施設でのお子様の姿を見ていただくことができるというメリットもある。</p> <p>往路復路ともに送迎サービスを実施するにあたっては、営業時間や勤務形態の見直しも必要になってくるため、法人全体としての課題として検討していく必要がある。</p>

2	<p>・職員の配置数・支援プログラム・自己評価の結果・避難訓練等について、事業所評価において「わからない」の回答が何件か寄せられている。</p>	<p>・契約時に、重要事項説明書に沿って説明をさせていただいている内容について、周知ができていないのではないかと考える。</p>	<p>・契約時だけに限らず保護者面談やおたよりを通じて保護者の方にご理解を頂けるようなアナウンスを繰り返ししていく必要がある。</p>
3	<p>・利用予定表、通信物（子ども達の様子や活動内容をお知らせするもの）が全て紙媒体である。</p>		<p>・SNSの有効利用で解決する事ができないか検討が必要。</p>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	社会福祉法人斐川あしたの丘福祉会 放課後等デイサービスあしたのおか		公表日 令和8年3月30日				
			利用児童数 22人 (兄弟含む)		回収数 21		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	2				・活動スペースは広めに確保されている と思うが活用方法をさらに工夫したい。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	18	1		2		・契約時に重要事項説明書にてお伝えし ている。改めて面談などを通して説明 し、ご理解を得る必要があると感じる。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20			1		・契約時に重要事項説明書にてお伝えし ている。改めて面談などを通して説明 し、ご理解を得る必要があると感じる。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20			1		・契約時に重要事項説明書にてお伝えし ている。改めて面談などを通して説明 し、ご理解を得る必要があると感じる。
適切 な支 援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	18	1		2		・このようなご意見をいただいたことを 重く受け止め、全職員で振り返りをした い。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	19			2		・契約時に重要事項説明書にてお伝えし ている。改めて面談などを通して説明 し、ご理解を得る必要があると感じる。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	21					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	21					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1			・本人のその時の気分等あるので、難し いこともあると思う。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	18			3		・改めて面談などを通して説明し、ご理 解を得る必要があると感じる。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会 がありますか。	5		3	13		・公共の場での自立活動において同じ空 間で過ごすことはあるが、前もって活動 内容を共同で計画することまではしてい ないので、今後検討していきたい。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	20	1				・契約時に重要事項説明書にてお伝えし ている。改めて面談などを通して説明 し、ご理解を得る必要があると感じる。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	21					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	13	1	2	5	・研修会についてはわからない。	・研修の案内を積極的に伝えていき たい。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達 の状況について共通理解ができていると思いますか。	21					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	1				・1件でもこのようなご意見をいた いだいたことを重く受け止め、全職員 で振り返りをしたい。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交 流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょう だい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設け られるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	3		6	・兄弟の支援についてはわからない。	・親子活動では、やむを得ず人数の制 限をしており兄弟の参加ができなかつ た。人員調整を工夫し兄弟の参加が可 能になるよう努めたい。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	3	2	・まだそんなに相談する事（機会）がない。	・このようなご意見をいただいたことを重く受け止め、全職員で振り返りをしたい。 ・改めて面談などを通して説明し、現在の相談体制の周知を図りたい。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	2			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17		1	3	・契約時に重要事項説明書にてお伝えしている。改めて面談などを通して説明し、ご理解を得る必要があると感じる。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19			2	・契約時に重要事項説明書にてお伝えしている。改めて面談などを通して説明し、ご理解を得る必要があると感じる。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1		1	・契約時に重要事項説明書にてお伝えしている。改めて面談などを通して説明し、ご理解を得る必要があると感じる。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	1		1	・契約時に重要事項説明書にてお伝えしている。改めて面談などを通して説明し、ご理解を得る必要があると感じる。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	1			・1件でもこのようなご意見をいただいたことを重く受け止め、全職員で振り返りをしたい。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20			1	・契約時に重要事項説明書にてお伝えしている。改めて面談などを通して説明し、ご理解を得る必要があると感じる。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	1			・1件でもこのようなご意見をいただいたことを重く受け止め、全職員で振り返りをしたい。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	1			・1件でもこのようなご意見をいただいたことを重く受け止め、全職員で振り返りをしたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	1			・1件でもこのようなご意見をいただいたことを重く受け止め、全職員で振り返りをしたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 社会福祉法人斐川あしたの丘福祉会
放課後等デイサービスあしたのおか

公表日 令和8年3月30日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	・その日の利用人数や子どもの状況に応じて部屋分けされ、過ごしやすいように工夫されている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0	・基準を十分満たしている。多くの子どもがいる場合は加配を配置している。 ・部屋担当が決まっており、子どもの状態に対してしっかり対応している。 ・各部屋に1～2名の職員が配置されており子どもの状況の把握がしやすい。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	0	・明るく開放的な空間になっている。 工夫されており適切である。 ・段差がなく、車いすを利用している児童が通ることができる空間（スペース）がある。 ・バリアフリーであり、多目的トイレも設置している。 ・部屋や通路に障がい物を置くことがない。 ・各部屋ごとに支援に必要な物を設置できている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	・屋内・屋外に、運動ができるスペースがある。 ・心地よく過ごせる空間になっている。 ・毎日掃除がされており、清潔に保たれている。 整理整頓されている。 ・数人で過ごす部屋、休息のできる部屋、運動をする部屋と活動に応じて過ごす部屋がある。 ・活動内容に応じて机などの配置を変えて対応している。 ・棚や机など、子ども達の体に合わせて使いやすくなっている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	・過ごしの空間を自由に選べる環境がある。 ・子ども達の状況に応じて、クールダウンできるスペースが選択できるようになっている。 ・クールダウンの部屋以外でも、個別に使用ができる一人用テントが複数準備されている。 ・身体的なケアが必要な子どもに対して、和室で処置や休息をとることができるようになっている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	・振り返りや伝達事項を伝えあえる時間を設けている。 ・いつでもPDCAを確認できるよう記録を用いている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・その都度、カンファレンスや支援会議にて行われている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・個別面談や支援会議で意見を募っている。 ・業務開始前のミーティングや月1回の支援会議で気になっていることについて意見交換をしている。 ・個人面談、アンケート、会議の場を設けることで意見の把握に務めている。 ・ディスカッションだけではなく普段の何気ない会話から話しやすい環境を作るよう務めている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	9		・外部評価は受けていない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	・様々な研修がある。	

11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0		
12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	・面談・アセスメントをもとに計画を作成している。 ・丁寧にされている。	
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	・計画を作成する際に、全職員によるアセスメントを行っている。 ・職員全員で話し合い、検討している。	
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0		
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	・日々情報共有をし、アセスメントしている。	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	・専門機関、学校、地域と連携し、必要な項目が適切に設定されている。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	・活動プログラムの立案をチームで行っている。 ・年間を通じた様々な活動計画を個別と集団を組み合わせて立案している。 ・職員全員で検討し、実施している。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	・おでかけ、クッキング、製作活動など子ども達が楽しめるように工夫されている。 ・季節や行事に合わせた様々な計画を立てている。 子ども達が楽しむことができるように工夫している。	
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	・年齢やライフステージにより計画を作成し支援を行っている。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	・支援開始前のミーティング、部屋担当の打ち合わせの時に話し合いをしている。 ・日々コミュニケーションをとりながら連携して支援している。 ・部屋担当職員間や送迎に出る職員と情報共有しながら連携した支援をしている。 十分にされている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	・気になったことはその日のうちに報告をしている。 ・個人記録で全体に情報共有をしている。	・勤務日、勤務時間の関係上、その日のうちに全員で話し合うことはできていない。 ・支援終了後に時間を確保することが難しいため、記録で残し、後日検討することで対応している。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	・毎日の記録が適切に書かれており、支援に反映されている。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	・適切にされている。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	0	・「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援をしている。	
25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	・スケジュールリングのための支援を行っている。 子ども自身に選択してもらう支援をしている。 ・その日のおやつを子ども自身が選ぶことができる仕組みになっている。	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	・されている。	

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	・主治医や協力医療機関等と連携をとっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	・されている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	・保育所等見学、支援会議で情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	7	・公共の場での活動を取り入れることで、交流、活動をしている。	・今のところ直接的な交流は無いが、機会があれば計画しても良いと思う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	・送迎時にその日の子どもの状況を伝えあっている。 ・連絡帳を活用し様子を伝えあうようにしている。 ・管理者を通じて伝えあうようにしている。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	・面談等で助言を行っている。	・助言をする程度にとどまっている。 ・研修などの案内はしていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	・契約時、面談時にされている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	・されている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	・されている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	・されている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0	・親子活動、奉仕活動などを通じて交流を図っている。	・参加者がもう少し増えていくといい。 ・兄弟の交流の機会はない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	・毎月、お便りを発行して活動の様子をお知らせしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	・十分に配慮されている。 ・常に意識している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7		・地域の人との交流を持るといい。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	・訓練を行っている。また適宜問題点を確認し、更新している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0		

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への確認を徹底している。 ・会議等で繰り返し周知し徹底している。 	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットを職員全員で共有している。 ・再発防止策の検討を支援会議で行っている。 ・速やかに対応し、再発防止に努めている。 	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束はしていない。 	